

ミヤコシ〜シール・ラベル向け間欠オフセット印刷機

株ミヤコシは、シール・ラベル市場向け間欠オフセット印刷機「MLPシリーズ」の新製品として、ミドルレンジモデルの「MLP13M」とウルトラコンパクトモデルの「MLP10i」の2モデルを開発し、販売を開始した。

省スペースで設置可能な「MLP10i」

シール・ラベル市場ではエンドユーザーから要求される品質レベルが年々高まっており、高い見当精度、正確な色合わせが可能で、なおかつ高生産性を持つ印刷機を求められている。その中で同社はシール・ラベル市場向けに、従来機でハイエンドモデルの「MLP13C」を提供し、好評を得てきた。しかし、設置スペースの問題などから「MLP13C」の導入を見送るケースもあったことから、その高い印刷品質は維持しつつ省スペースで設置可能なウルトラコンパクト機「MLP10i」を開発した。そして、そのウルトラコンパクト機「MLP10i」とハイエンド機「MLP13C」の中間のレンジの



ウルトラコンパクトモデル「MLP10i」

ニーズにも応えるべく、「MLP13C」の高い性能を継承しつつ、全長と価格を抑えたミドルレンジモデル「MLP13M」も開発した。

各モデルとも、給紙+オフセット印刷5色+フレキソ+ダイロール+カス上げ+巻取が標準構成。「MLP13M」の主なスペックは、機械長7750^{ミリ}、最大印刷幅330^{ミリ}、印刷速度は毎分200ショット、天地送り50～254^{ミリ}。「MLP10i」の主なスペックは、機械長6000^{ミリ}以内、最大印刷幅254^{ミリ}、印刷速度は毎分120ショット、天地送り50～200^{ミリ}。

モーションコントロール技術を搭載〜ミューラー・マルチニ



中綴じ機「Primera Pro」

新型中綴じ機2機種を発表

ミューラー・マルチニ社は、drupa2020で発表することを予定していた新型中綴じ機「Primera Pro」と「Prinova」を発表した。

「Primera Pro」は「Primera MC」の、「Prinova」は「Prest II」の後継機で、機械の各ユニットを個別のサーボモーターで駆動させるモーションコントロール技術を搭載したモデルとなる。このモーションコントロール技術は、フィーダーやギャザリングチェーンをはじめとした各ユニットの可動部がサーボモーター

で単独駆動した上で、全体が同期制御される。各ユニットを単独サーボ駆動で個々に動かすことができるので、高い位置決め精度と各部のプロセスの効率化が図れることにより、ジョブ替え時間が短くなり、短時間で最大の生産性を発揮することができる。

「Primera Pro」は最高速度毎時14,000回転の生産性を持ちつつ、高レベルのジョブ替え作業の自動化が図られていることから、小ロットで短納期なジョブから大ロットのジョブまでの幅広い仕事に対応するモデル。モーションコントロールのメリットを活かした新設計の三方断裁機は本の厚みを含めたあらゆる設定調整が自動化され、ジョブ替えのためにオペレーターが手動による作業をする必要がない。

「Prinova」は、小ロットジョブを効率的に生産することができる、最高速度毎時9,000回転の能力を持つモデル。オペレーターが1人で簡単に作業を行えるよう、フィーダーに改良が加えられている。